

[シンポジウム] QOLを向上させる最先端スポーツ活動

# 新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科におけるパラアスリート支援ネットワークの構築と教育

新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 義肢装具自立支援学科  
学科長・教授 東江由起夫

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、全国各地では障がい者スポーツへの理解と支援体制を強化するための様々なイベントが開催されている。こうした背景を受け、本学科でも2017年より「障がい者陸上教室ParaTFC」を立ち上げ、障がい者スポーツに参画する切断者の発掘、スポーツ用義足の製作適合技術の確立、トレーニング方法の確立、学生教育、精通した専門職の育成、パーツ等の貸し出し等の支援体制の構築を目的に月1回開催している。本活動には本学科教員ならびに学生を中心に健康スポーツ学科教員、理学療法学科教員、近隣の義肢装具製作企業に勤務する義肢装具士等が参加している。現在、数名の下肢切断者が参加し、これまでに新潟県障がい者スポーツ大会や、県代表として全国障がい者スポーツ大会に送り出すほどの活動に至っている。また新潟医療福祉大学のリハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による“アジアに秀でる先端的研究拠点”(SHAIN: Sports & Health for All in Niigata) プロジェクトに基づく障がい者スポーツの先端的研究推進も兼ねている。

これらの活動を通して、本学科の学生は障がい者スポーツに理解を深め、同時にスポーツ用義足のソケットの製作方法やアライメント調整方法等を学んでいる。また研究面では本学科教員による陸上競技用義足の評価分析、競技用足部研究開発が進められており、学生の卒業研究にも活かされている。その成果が切断者の走行ト

レーニングの指導に役立てられている。またトレーニングの指導では健康スポーツ学科や理学療法学科等との連携が強化され、さらには近隣の義肢装具製作企業、病院、新潟県障がい者スポーツ協会等の学外連携も強化されつつある。

以上、今回のシンポジウムでは、本学科で取り組んでいる「障がい者陸上教室ParaTFC」について紹介し、保健・医療・福祉・スポーツ分野で活躍する人材育成に取り組んでいる本学の学科間連携を活かした「QOLを向上させる最先端スポーツ活動の推進」についてディスカッションを行った。

